

令和6年度 学校内部評価シート

※ 評価基準：4(よく達成できた) 3(まずまず達成できた) 2(あまり達成できなかった) 1(達成できなかった)
分野(経営の重点) ①明るく、楽しく、生き生きとした魅力ある学校づくりを推進する。
②確かな学力を身につけさせ、個性の伸長を図る。
③町内唯一の高校として地域を支え、地域に支えられながら学校文化の発信に努める。
④教職員としての使命感を持ち、高い専門性と豊かな人間性の修養に努め、協働の精神を養う。

A:よく達成できた(4.0～3.3) B:まずまず達成できた(3.2～2.6)
C:あまり達成できなかった(2.5～1.9)

分掌	N0	分野	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	成果	平均	評価	改善の方策	学校関係者評価委員会
総務	1	③	地域・保護者との連携の強化。	(ア)学校行事や教育活動を通じて、保護者や地域との交流を図る。 (イ)積極的にHPを更新し、外部への情報の発信を行い、本校への理解と関心を深める。 保護者アンケートで85%以上が広報活動を評価するようにする。	(ア)体育大会・福高祭の保護者観覧は、多数の来場があった。グラウンドゴルフ大会も老人会との交流も実施できた。 (イ)先生方のご協力でHPの更新も頻繁に行えた。播磨福岡高校との2校のHP更新が課題。より興味・関心を持って見ていただけるような工夫が必要である。	3.36	A	・保護者への案内の仕方の工夫。配布プリントが手渡らない場合があるので、HPをより活用したい。 ・横断幕、のぼり等、新しく購入していただき、PRをしたい。	・図書室利用の推進については、引き続き利用の向上を目指した活動に取り組まれるとよいかと思います。
	2	④	危機管理の意識と判断力の向上。	(ア)防災訓練を計画的に行い、初期対応や注意事項を確認させる。 (イ)訓練の内容や方法を工夫し、職員・生徒の防災意識を高め、アンケートで災害時どのように行動するかを考えている生徒が85%以上いるようにする。	(ア)7月の避難訓練(地震)では、姫商高のボランティア体験を報告してもらった。 (イ)3月の訓練(火災)は、日本赤十字社の協力のもと実施予定であり、防災に対する意識を高める企画である。	3.53	A	・近年、消防署との連携が少ないので、訓練での協力を依頼したい。 ・教職員対象の防災の研修会、教職員のみでの避難誘導訓練を実施したい。	
	3	②	図書に関する情報提供を積極的に行い、生徒の読書活動の活性化を図る。	(ア) 適切な図書の収集・情報提供を行う。 (イ) 読書室・学習室として一日平均10名以上の利用を図る。 (ウ) 1・2年の全生徒対象に夏休みに西播読書感想文を提出させる。 (エ) 年度末に「水流」を発行し、読書活動や図書委員会活動を活性化する。 (オ) 生徒参加型の図書だよりを発行し、全生徒に配布する。 (カ) 図書委員による学級文庫の設置を行う。	(ア) 発展的統合を見据えた図書の整理と購入を行った。 (イ) 達成できていない。環境整備が必要。 (ウ) 1年生希望者対象に変更、4名が提出した(校内)。 (エ) 今年度は発行したが(ウ)と合わせ来年度以降は要検討。 (オ) 委員による図書紹介を行い、発行できた。 (カ) 設置はできたが、さらなる読書活動につなげたい。	3.30	A	・貸し出し数を増やす以前に、まずは図書室への来室者を増やすため、昼休みは毎日開室することを検討したい。 ・発展的統合に向けた図書の整理を引き続き行う。 ・図書だよりを活用して、図書の購入にも生徒の意見がさらに取り入れられるように工夫する。	
	4	④	学校全体の人権意識の高揚を図り、一人一人の人権を尊重する。	(ア) 各学年の実態に応じたLHRを計画実施する。 (イ) 生徒・教職員の必要性に応じた講演会や研修会を実施する。	(ア)あらゆる教育活動を通じて、生徒が人権の大切さを認識する活動を推進する。 (イ)各学年で実践された人権HRの内容を、全体で共有して、発展させる。 (ウ)講演会の内容について、現代における問題点にそったテーマを企画する。 今年度は「ともに生きる社会」をテーマに講演会を開催した。 (エ)西人教研究大会において、進路学力保障の分科会で研究発表を行った。	3.26	B	・生徒が人権の大切さを認識する活動を推進する。 ・講演会の内容を多様化する人権課題にそったテーマで企画する。 ・教職員向けの人権研修を企画する。	・教育技術向上に向けた組織的な取り組みを充実させる意義は大きいものと思われます。
	5	①	美化委員の活動を活性化させる。また、生徒が安心して学習や活動に取り組める環境を作る。	(ア)美化委員によるゴミ当番・クリーナー清掃・学校行事における美化活動を活性化させる。 (イ)清掃用具の点検、安全点検を行い、生徒自身が学校生活や美化活動に取り組むやすい環境を作る。	今後は、統合後のクラス増をふまえて清掃区域や分担の再考が必要である。また、生徒の手による清掃、清掃用具の整備、点検等を実施し、充実させていきたい。生徒が安全に学校生活を行えるように、古い備品や用具を定期的に入れ替えていきたい。	3.36	A	統合後のクラス編成にあわせ清掃区域の分担を再考する。また、清掃用具などの新施設にあわせたものに變更していく。	
教務	6	②	学習意欲の向上を図る。	(ア)教材の精選と指導方法の工夫に努め、生徒の学習意欲の向上につながる授業改善に取り組む。 (イ)生徒による授業評価を実施し、80%以上の生徒が学習意欲の向上を実感する。 (ウ)効果的な家庭学習の方法を模索する。	生徒による授業評価では、「意欲的に授業に参加したか」の項目で85.9%の生徒ができたと回答し、また、「授業の内容は理解したか」の項目で76.9%の生徒ができたと回答した。 家庭学習については、クラス担任による個人面談において、助言を行っている。	3.16	B	「授業の内容は理解したか」の項目で76.9%の生徒ができたと回答したが、教員の認識との間にギャップが生じている。家庭学習の時間を増やしたいが、むやみに課題を増やしても、生徒の負担感ばかり増し、効果的な学習を阻害している例もあるので、学年の中で課題の内容や量を共有できるような取り組みを行う。	
	7	④	教員の指導力の向上を図る。	(ア)校内研究授業や公開授業などの研修を通じて指導力を高める。 (イ)生徒アンケートで教師が授業を工夫していると評価する生徒が80%を超える。 (ウ)タブレットなどのICTを活用した効果的な指導方法を研修する。	公開授業や校内での研究授業を計画し、学期ごとに実施することができた。定期的に実施することで、自他の授業について振り返り、改善する良い機会が持てている。 生徒アンケートでは、教師が授業を工夫していると85.7%の生徒が評価した。目標数値は達成できているが、甘んじることなく今後も様々な授業構築の取り組みは続けたい。 ICTの活用は各教員で工夫して実施している。しかし、効果的な指導方法についての研修は現在行っていない。各教員の取り組みの発表を行うなど、研修の場をもつことを今後検討したい。	3.23	B	校内研究授業、公開授業週間は引き続き行う。 研修会の機会をもていないため、授業を工夫していると回答している生徒が多いのは、個々の教員の取り組みによるところが大きい。少しでも良いので情報交換の場をもてようにしたい。	
	8	①②	魅力的な教育課程を編成する。	(ア)大学入学者選抜実施要項の見直しをふまえ、新学習指導要領による令和4年度以降入学生の進路実現に向けた新教育課程を編成する。また、すべての教員がゆとりを持って、教科指導にあたるように時間割編成を工夫する。 (イ)教科の選択や、評価方法の理解を深めるために、シラバスを効果的に活用する。 (ウ)コース・類型の特色を図るため、教育課程の見直しと改善に取り組む。	シラバスについては、生徒に示し進路選択の一助となるように効果的に活用できた。 時間割については、教科や分掌の会議を放課後ではなく、日中にできるように編成することができた。 各行事や学習活動では、振り返りを行うことで成果や課題を確認することができている。 新課程、3観点評価、発展的統合と次々新しくなっていく教育活動に備え、引き続き、教育課程を検討していきたい。	3.26	B	カリキュラムポリシーにのっとり、生徒の進路実現を見据えた教育課程となるよう引き続き検討する。特に、文理選択や選択科目の設定や、総合的な探究の時間の取り組み方を組織的に計画し、効果的に実践できるようにする。	

分掌	N0	分野	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	成果	平均	評価	改善の方策	学校関係者評価委員会
生徒支援	9	④	規範意識・マナーの向上を図る。	(ア)問題行動(いじめ)の早期発見と迅速かつ丁寧で慎重な対応をする。 (イ)ネットトラブルを起こさない、巻き込まれないよう携帯電話やタブレットのインターネット利用時のルールやマナーを守る態度を育成し、情報モラルの向上を目指す。 (ウ)個人ロッカーを設置し、貴重品などの自己管理を徹底させる。 (エ)自転車を中心とした交通安全教育の推進する。 (オ)職員室への入室方法を見直すなど、学校生活の中で規範意識を育む。	いじめアンケートを年間4回実施した。今年度より、全学年がタブレットを用いて回答するようにした。第3回のみ記述式とした。スマートフォンのマナー指導件数は1月末現在で23件と昨年度の指導件数とほぼ同等であった。注意喚起を継続して行う必要がある。また、登下校のマナーについても、引き続き見守ってきたい。	3.20	B	引き続きいじめアンケートの内容と実施方法を見直し、改善していき、いじめの防止につとめ情報共有する機会を増やしていく。携帯電話のマナー指導を行いネットトラブルからいじめにつながらないように、情報リテラシーを高める工夫をおこなう。	
	10	①③	福高生としての心構えを確立する	(ア)自信と誇りが感じられる身だしなみの指導。 (イ)地域に貢献する姿勢と、母校愛の涵養を図る。 (ウ)全職員による生徒とのコミュニケーションの強化する。	各学期はじめの服装頭髪検査を機会に生徒の身だしなみの指導を実施した。文化祭では、サルビアこども園の児童たちと交流したり、11月には1年生がボランティア清掃として学校周辺を掃除するなど、地域とのつながりを意識できる行事を行った。	3.00	B	身だしなみを整えることと、普段からの生徒の変化に気づくように努め、学年間で統一した意識を持つ必要があり、部会等で意見を出し合い確認していく。	いじめの現状把握に向けた取り組みを続けていることは大いに評価できる。
	11	①	自分を大切にし、他者を思いやる生徒の育成を図る。	(ア)あいさつ運動を継続実施する。 (イ)相互理解の態度とさわかな自己表現力を養成する。 (ウ)不登校の予防と早期発見に努め情報共有を密にする。	生徒会執行部と生活委員によるあいさつ運動を実施。各クラス的生活委員も自覚と責任感をもって取り組んだ。毎週行われる部会や年3回行われる生徒情報交換会で生徒の情報を全職員に共有するとともに、生徒にキャンパスカウンセラーを積極的に利用させることで不登校の予防や慎重かつ丁寧な対応を行った。	3.33	A	あいさつ運動は継続し、あいさつをおこなうことで生徒の規範意識や所属意識を高めるように工夫する。みちしるべを活用した生徒とのコミュニケーションによりきめ細やかな生徒支援の配慮を行っていく。	
進路支援	12	②	主体的に進路をマネジメントする能力を育成するためのシステムを構築し、効果的に運用する。	(ア)高大接続改革に伴う入試の在り様やスケジュールの変化に基づき、3年間の各時期毎のすべきことのモデルを創り、実行させていく。 (イ)「みちしるべ」や「高等学校キャリアノート」を利用させつつ、時間管理能力や計画立案能力を高める。 (ウ)志望校の選択決定後の実際の成績状況の推移の中で、状況に合わせた、柔軟な修正能力を育成する。	(ア)時期毎の進路HRや進路講演会等を通して、各時期に何をしたい必要があるかの確認をした。 (イ)「みちしるべ」の点検と、それを利用しての面談が、定期的に実施できている。またキャリアパスポートの記載の蓄積を行った。 (ウ)模試の成績変化と入試結果等を基に、個別面談や三者面談を繰り返しながら、進路検討会で提示された追加の受験先や受験先の変更について検討させ、自身のその時点での実態に合わせた受験先を選択できた。	3.33	A	共通テストが新課程対応となり、受験科目が増えたり、総合型選抜の受験生が増加する中で、より早期の受験体制づくりが必要になってきているので、特に2年生の2月以降の時間の使い方について、学習面と進路学習の双方から、継続中の方策を実践し、3年生の4月段階で受験生になれる体制づくりをしていく。	・希望する進路に進める様に指導してやってほしい。 ・自主的な進路決定に向かうための支援が重要になると感じました。組織的な取り組みが充実することを願います。
	13	④	共通テストや高大接続改革、新教育課程での入試に対応できる指導の充実に向けて、方法や情報の蓄積、共有、協働を図る。	(ア)高大接続改革が進む中で明らかになってきた、マクロ的、ミクロ的な改革の方向性についての情報を、職員会議や研修会、進路支援通信等の発行を通して、積極的に発信していく。 (イ)教務と連携しつつ、生徒の学びの状況を分析し、効果的・効率的な学習のさせ方についての議論を深めていく。また新教育課程での入試対策に向けての議論を活発化する。 (ウ)探究活動が重視される中で、総合型や推薦入試に対応できる基本的な指導方法の共通理解を深めつつ、小論文や志望理由書、面接に対する、より効果的、効率的な指導法についての議論を活発化する。	(ア)新課程入試の職員研修会を6月に実施し、現状や今後の指導の仕方等についての情報を共有できた。また部会等を通して、本年度の入試の形態や実態について、きめ細かく発信した。 (イ)模試結果の分析を通じて、どういった問題があり、どう対応していくか、問題意識を共有している。また教育課程委員会で受験を踏まえた望ましい教育課程についての議論を行った。 (ウ)進路研修会を通じて、探究活動と入試の対応関係を把握し、それを踏まえて、小論文や面接の指導法について共通理解をしつつ、新しい出題のされ方など、情報を収集しながら、対策の検討を行った。	3.40	A	新課程入試が進む中で、共通テストの変更だけでなく、国公立大の二次試験、私大の一般選抜の変化に加え、総合型や学校推薦型の変化など、流動性が高まる状況の中、必要最低限の押さえておくべき情報と、生徒側に調べさせて、対応させる情報、などの、マクロ的な視点からの情報分析・整理をし、それを教師や生徒に時期毎に提示してゆく、ということを進めてゆく	
	14	③	キャリア教育の一層の充実を図る。	(ア)看護体験や就業体験等のインターンシップを、2年時より計画的に実施する。 (イ)「職種別生き方座談会」等を通じて、職業意識、勤労観を養う。	(ア)本年度も看護医療体験が実施できた。本年度はその時点での2年生の就職希望者が不在だったので、役所での夏休みのインターンシップは実施しなかった。 (イ)「職種別生き方座談会」を11月15日に実施し、PTAや卒業生からの話を聞くことで、自分の将来について考えることができた。	3.53	A	社会の中で働くということの意味や求められる能力を踏まえた上で、なぜインターンシップが必要なのか、ということを事前指導で提示し、事後に何を待たのか、ということの確認をするなど、よりインターンシップが効果的になるような、指導をしてゆく。	
1学年	15	②	基本的な生活習慣を確立し、基礎学力の定着を図る。	(ア)気持ち良い挨拶の励行、時間厳守を意識させ、「みちしるべ」に学習時間等を記入することで、時間の有効利用を促す。 (イ)授業を大切にし、予習・復習等の家庭学習を充実させるとともに、小テストや週末課題に真面目に取り組ませる。以上を基本に、家庭学習時間が週平均15時間以上の生徒が70%を超えることを目標とする。 (ウ)タブレットPCを活用し、授業での学習効果を高め、効率のよい学習を行う。	全般的に気持ちのよい挨拶ができおり、時間を守るなど、大部分の生徒は基本的な生活習慣を確立している。小テストや週末課題などの学習習慣の定着は個人差があり、まだまだ達成できていない生徒が多い。家庭学習時間については、調査直前の週は6割程度が目標を達成しているが、学年全体の平均は週10時間程度であり、2割程度の生徒しか目標を達成できていない。継続して学習ができている生徒とほとんどできていない生徒の二極化が進んでおり、差が大きくなっている。 タブレットPCによるアンケート実施、小テストや課題配布、回収、生徒連絡等を行い効率良く学習を行える方法を試行錯誤しながら行うことができた。	3.30	A	引き続き「みちしるべ」の記入を徹底させ、個人面談等で個々に応じた指導を行い、家庭学習時間の確保させたい。また、小テストにもその結果が反映できるように指導してきたい。タブレットPCの端末の利用を通じて、スムーズな連絡や予定の管理を行い、その有用性を意識させたい。また、授業の予習・復習・週末課題をこなすだけでなく、日々の学習内容の定着が必要であることを理解させたい。	
	16	①	知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。	(ア)学校行事や部活動への積極的な参加を促し、学校生活の充実を図る。 (イ)学校生活を通してルールやマナーなどを守る態度を育て、周囲の人に気を配ることができる。思いやりのある集団作りを目指す。以上を基本に、充実した学校生活が送れている生徒が85%を超えることを目標とする。 (ウ)情報モラルを高め、生徒同士で注意し合える雰囲気作りをめざす。	アンケート結果によれば、「本校に入学してよかった」と感じている割合は生徒93%と保護者97%となり、学校生活に満足している様子がうかがえる。「目標や目的意識を持って学校生活を送っているか」という質問に関しては、生徒70%、保護者69%という結果である。今後はさらに何のために学習するのか等、目標や目的意識を持って、具体的な進路実現に向けての指導を充実させていく必要がある。	3.33	A	中学入学として学校行事や部活動、生徒会活動の中心となって各活動に積極的に取り組み、主体的に行動できる生徒を育成したい。また、修学旅行に向けての集団生活の規律を守り、自己の役割を果たすことと規範意識を高めたい。より思いやりのある集団づくりを目指したい。	
	17	②	進路意識の高揚を図る。	(ア)「総合的な探究の時間」における職業調べや学部学科調べを通して、将来の進路について考えさせる。 (イ)オープンキャンパスや進路ガイダンスへの積極的な参加を促す。以上を基本に、2年生に進級する時点で、全生徒が何らかの進路目標を持っていることを目標とする。	総合的な探究の時間における活動や考察を通して、将来の進路について真剣に考えた。また、総合的な探究の時間で継続的な進路学習を行い、自らの特性を理解し文理選択・進路選択のために積極的に情報を活用できた。また、「大学のオープンキャンパスへの参加」、「生き方座談会」や「進路講演会」からも良い刺激を受けることができたという感想を持つ生徒が多かった。	3.33	A	まだ目標が定まっていない生徒がいるため、進路ガイダンスやオープンキャンパスに積極的に参加させて、進路目標の明確化を図る。また、進路実現に向けてどのようなことが自分自身に必要なのか、しっかりと考えさせていきたい。模擬試験などを通して学力の定着や振り返りによって、目標実現に必要な力を意識させたい。	

分掌	N0	分野	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	成果	平均	評価	改善の方策	学校関係者評価委員会
2学年	18	②	基本的な生活習慣と計画的な学習習慣を定着させる。	(ア)時間厳守、タイムマネジメントやスケジュール管理を意識させるために「みちしるべ」の活用を促す。 (イ)授業を大切に、日々の家庭学習を充実させるとともに、土日の有効活用を意識させる。 (ウ)タブレットPCを活用し、教科の特性に合わせ効率よく学習を進める。	一部教科・科目ではPCを使っているが、全体としてはまだ使っていない教科・科目が多い。PCを使うことがいいわけではないが、もっと活用していきたい。	2.90	B	一部教科・科目ではPCを使っているが、全体としてはまだ使っていない教科・科目が多い。PCを使うことがいいわけではないが、もっと活用していきたい。	
	19	①	知・徳・体の調和のとれた人間性と主体性豊かな生徒を育成する。	(ア)学校行事や部活動への、中堅学年としての積極的な参加を促し、学校生活の充実を図る。 (イ)学校や社会におけるルールやマナーを遵守する態度を育てる。 (ウ)周囲の人に気を配ることができる、思いやりのある集団作りを目指す。 (エ)修学旅行等の行事を通じて集団生活の規律を意識し、社会に適用する人間形成を行う。	修学旅行では概ねルールを守り協力することができた。学校行事や部活動においても主学年としてリードすることができた。ただ、日々の遅刻や欠席に関しては少し多くだらしない面が見受けられた。	2.93	B	日々の生活における遅刻や、授業中に規律を守れていない生徒に対して、個に応じた支援をあきらめず行う必要がある。	
	20	②	進路目標の明確化を図る。	(ア)個性や適性をとらえながら、自己の進路について、より深く考えさせる。 (イ)タブレットPCを活用し、幅広い情報に基づいた、豊かな人生観・職業観を養い、進路目標を具体化させる。 (ウ)進路実現に向けて必要な学力を意識させ、模試の結果から自己の特性を分析し、個々に必要な学習に取り組ませる。	夏のオープンキャンパスなど、個々の進路を明確にできている。ただ、学力においては理想に追いついていない生徒が多く、ここからの粘りが必要である。意識の高い生徒には補習等を行い、個々を伸ばしていくことも必要である。	3.23	B	行ける大学ではなく、行きたい大学に合格できるように、日々の授業から意識をしていきたい。。意識の高い生徒には補習等を行い、個々を伸ばしていくことも必要である。	
3学年	21	②	基本的な生活習慣に基づき、家庭学習時間を確保し、自己で管理するとともに計画的・継続的に学習する。	(ア)各自の進路希望実現のため、家庭学習時間を確保できるようなタイムマネジメントと日々のスケジュール管理を指導する。 (イ)「みちしるべ」の有効活用して、自ら生活習慣や学習習慣をチェックし、改善しようとする意識を持たせる。 (ウ)タブレットPCを積極的に活用し、時間効率の向上を図る。	大部分の生徒は基本的な生活習慣を確立することができた。家庭学習時間と進路指導について、「みちしるべ」の活用に加えて、担任との面談により密な連絡体制をとることができた。各自の進路目標に合わせたの学習と受験指導を展開することができた。 タブレットPCを利用して効率的に生徒との双方向の連絡体制を構築できた。	3.26	B	新課程、BYOD初年度の学年であったが、タブレットPCの利用を推進した。今後は、使える場面などの整理と、他学年と共通の運用の仕方の開発など行うことが必要である。	
	22	①	知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな生徒を育成する。	(ア)高校生活最後となる各学校行事に、最高学年としての自負をもって取り組ませる。 (イ)日常生活や行事への取り組みの中で、集団での自分の役割や立場を意識させ、周りの人への気配りを心がけさせる。 (ウ)個人の目標に向かって努力しながら、切磋琢磨し、お互いを尊重しあえる集団作りを目指すし、他の学年の模範となる。	各種学校行事や学校生活では最終学年として自信をもった行動をとることができるようになった。進路実現のためには学習時間が不十分と見受けられる生徒も残念ながらいいたが、授業への取り組みについては、タブレットPCによりアンケートの実施や資料配布、課題の提出などを効率よくこなうことができた。	3.30	A	学校行事などには積極的に取り組んでいるが、より主体的に活動できる環境と、アンケート調査などの分析と活用をする必要がある。課題の提出状況などの追跡を行い個々のケアを続ける必要がある。	
	23	②	各自の進路希望の実現に向けて、個に応じた丁寧な指導をする。	(ア)新課程と入試改革の中、自分の進路は自分で切り拓くという強い意志を持たせ、進路実現のための進路を明確化し、目標に向けて努力を継続させる。 (イ)模試受験後は、自己の分析を的確に行い、事後の学習のためのフィードバックに努めさせる。 (ウ)個人面談等を丁寧に言い、生徒理解に努め、個に応じた進路が実現できるように指導をする。	模試の結果の個人管理や進路情報、また各種オンラインのツールを利用して、出願や情報収集を積極できに行い、進路選択に向けて行動することができた。早期から、小論文、面接指導等に取り組み、進路支援部はじめ学校全体として教員の指導をきめ細かく行うことによって、多様な進路ニーズに答えることができた。	3.30	A	新課程となり始めての進路指導であったが、共通テストの受験科目の大学別の傾向などがある程度つかめた。今後は、さまざまな入試形態に合わせてどの科目を利用するなど、傾向と対策を他学年に共有することで多様な進路ニーズに答える必要がある。	
						3.27			

学校関係者からの意見、要望。

- ・魅力ある学校を作り、定員割れをなくしてほしい。
 - ・播磨福岡高校の新たな教育が充実したものになるよう、準備をすすめていかれることに期待しております。
 - ・主観的な評価が多い為、評価の妥当性の判断が困難です。数値基準を設け、その数値が妥当か否かの評価が望ましいと思います。